

# 行為指示機能の終結語尾「-지(요)」と日本語の対応関係

—脈絡分析を活用して—

高 優 美

## Abstract

本 연구는 지시 기능으로 수행하는 종결어미 「-지(요)」의 담화 맥락과 그 기능의 특성을 바탕으로 일본어 대응 표현을 고찰하는 것을 목적으로 한다. 이를 위해 한국어 드라마와 일본어 더빙 자료를 사용한 한일 병렬 코퍼스를 구축하여 190 개의 용례를 수집하였다. 본 연구는 「-지(요)」를 형태마다 ① 「-(으)시지요/-(으)시죠」와 ② 「-지요/-죠」, 그리고 ③ 「-지」로 나누어 그 담화 맥락(화자와 청자의 성별과 연령, 연령, 지위, 관계 유형, 발화 장면, 장르 등)과 지시 기능을 살펴 차이를 기술한 다음에 이에 따른 일본어 대응 표현을 살폈다. 그 결과 ① 「-(으)시지요/-(으)시죠」와 ② 「-지요/-죠」, 그리고 ③ 「-지」가 쓰이는 담화 맥락과 기능에는 차이가 있었으며, 각 형태가 쓰이는 담화 맥락에 따라 대응할 것으로 예상되는 일본어 표현이 대응하지 않은 경우가 많고, 다양한 일본어 표현이 대응한 결과가 나타났다. 또한 이러한 차이를 담화 맥락적 특성을 비교하면서 고찰하였고, 각 형태마다 일본어 모어 화자에게 교육해야 할 점을 기술하였다. 본 연구의 결과는 한국어를 배우는 일본어 모어 화자에게 담화를 통한 「-지(요)」의 용법 설명과 일본어와의 차이를 교육하는 것에 있어서 도움 될 것을 기대한다.

## 1.はじめに

本稿は行為指示機能<sup>(1)</sup>として使用される韓国語の終結語尾「-지(요)」の日本語対応表現がその談話場面や機能の特徴によって、どのような様相として現れるのかを考察し、この結果をもとに「-지(요)」の言語使用の特徴や日本語との違いを記述することを目的とするものである。「-지(요)」は해(요)体の終結語尾<sup>(2)</sup>であり、平叙文、疑問文、勧誘文、命令文などの多様な文型で利用できる語尾である。その中で、本研究が対象とするのは「-지(요)」が勧誘文や命令文などの文型で利用されるもので、実際の発話場面では「命令」や「依頼」、「勧め」などの様々な行為指示機能と関連した機能として利用されているものである。次はこのような機能を遂行する終結語尾「-지(요)」の例である。

(1) 本稿では話し手が聞き手に何らかの行為をさせようとする機能をまとめて行為指示機能と呼ぶことにする。行為指示機能の定義やその分類については3章を参照。

(2) 韓国語の해(요)体の終結語尾は文を終結させる機能や文の種類の表示をする機能以外にも、待遇法や話し手の認知的な態度、発話行為、談話上の機能などの多様な機能の特徴を持つ語尾である(장채린 2018:1)。

- (1) (민우) 이쪽으로 앉으시죠. (社内お見合い 4 話)
- (2) (진과장) 가죠, 뜨끈한 국물이라도 좀 먹게. (氣象庁の人々 5 話)
- (3) (하민) 이제 나랑 교대 좀 하지? 응? (社内お見合い 4 話)

(1) は「-지」に尊敬を表す「-(으)시-」と丁寧を表す「-요」が付いた「-(으)시죠」の形態であり、ミスが社長に対してこちらの方に座るよう丁寧に勧めている機能として使用されたものである。(2) は「-지」に丁寧を表す「-요」が付いた形態で、課長が部下に温かいスープでも食べに行こうと勧誘する機能として使用されたものである。(3) の「-지」は普通体にあたるもので、弟のハミンが姉のハリに対して店番の交代を不満げに要求する機能として使用されたものである。上記 (1) から (3) は形態ごとに使用できる談話場面が異なり、指示と関連した多様な機能として使用されていることが分かる。また、それらの談話的要因に従って、(1) から (3) の下線部に対応する日本語表現も多様な様相を見せることが予測される。

しかしながら、辞書や参考書などでは、(1) から (3) のような「-지(요)」に関する談話場面や機能、それをもとにした日本語対応表現などを参考にするには限界がある。また、日本語母語話者にとっては、行為指示機能と関連した他の様々な類似表現との違いを把握することも難しい。そのため、本研究では、談話を考慮した教育又は資料として活用できるように、韓日並列コーパスから取り出した (1) から (3) の形態ごとに、その談話脈絡と行為指示機能を分析し、各形態による比較も行いながら、日本語との対応関係を考察することにする。

## 2. 先行研究

終結語尾「-지(요)」はこれまで多様な観点からその意味が説明されてきた<sup>(3)</sup>。まず、文の類型ごとに「-지(요)」の意味を明らかにした한길(2004:135)では、勧誘の「-지(요)」は「やわらかい提案(부드러운 제의)」を表し、命令は「やわらかい勧め(부드러운 권유)」の意味を表すとした。様態(양태)の観点から終結語尾「-지(요)」の意味を説明した박재연(2004:153-155)では、勧誘や命令の「-지(요)」は様態(양태)の意味体系の中でも「行為様態(행위 양태)」に属すとし、「提案」を表すと説明した。

また、「-지(요)」の基本の意味<sup>(4)</sup>を中心にその多義性を説明した文彰鶴(2011a:56-61)では、「確かな知識」を意味する平叙文の「-지(요)」が語用論的脈絡によって「提案調の命令文」や「提案調の勧誘文」の意味・機能に拡張することを説明した。その他にも강현화ほか(2016:400-

(3) 本稿の先行研究では命令文や勧誘文などの行為指示機能と関連した「-지(요)」を中心に見ていくことにするため、先行研究で説明された平叙文や疑問文などの意味に関してはここでは言及しないことにする。

(4) 文彰鶴(2011a:60-61)では平叙文の「-지(요)」は「すでに知っている内容(知識表明)」を表すとし、その意味が確信度の観点から「確かな知識」と「不確かな知識」を表す場合があったとした。

402) では「-지(요)」の意味をそれぞれ「強めに命令する (강한 느낌으로 명령하기)」、「強く提案する (강하게 제안하기)」などと説明している。以上から、「-지(요)」は命令や勧誘という基本的な意味以外にも「やわらかさ」や「提案調」、「強い口調」などの様々な意味的特徴が言及されている。

次に本研究と関連のある談話・語用論的な観点から「-지(요)」の機能について考察した研究を見ていく。これらの研究には최수정(2014), 김강희(2019) などがある。최수정(2014) では、「-지(요)」の様態(양태)の意味を再分類し、その談話機能と談話脈絡を考察した。この論文では命令や勧誘で使用される「-지(요)」の様態(양태)の意味は「提案」と説明し、その談話機能は「命令(시킴)」、「皮肉(빈정댐)」、「勧誘(청유)」の機能として使用されていると説明した。また、김강희(2019) では、韓国語の指示の発話行為(지시화행)を表す文法表現を対象に談話文法の観点から研究を行った。その中で「-지(요)」は「-어야지」、「-으셔야지(요)」、「-지(요)」、「-으시지요」、「-있어야지」などの文型ごとに、その指示の発話行為の機能と談話脈絡を考察し、違いを明らかにした。

「-지(요)」に関する韓国語と日本語のこれまでの対照研究は、主に日本語の終助詞と韓国語の終結語尾「-어(요), -지(요), -군(요), -네(요)」などを対象にその対応関係やモダリティの意味の違いを考察する研究(文彰鶴 2011b; 나성영 2009)が中心である。命令や勧誘用法の終結語尾「-지(요)」を対象に韓国語と日本語の対照研究を行った研究はほとんど見られず、정하준(2014)のみである。정하준(2014)では、終結語尾「-지(요)」の用法を6つに分け、韓国ドラマのシナリオ対訳集から日本語対応表現を考察した。本研究と関連のある「行動要求(행동요구)」の上位に対応した日本語は「～う・～よう」、「～なければならない」、「～ないとならない」、「～てください」、「どうぞ」などである(정하준 2014:119)<sup>(5)</sup>。しかし、これらの結果は「-어야지(ㅈ)」の文型も含んでおり、また、形態や機能ごとによる対応関係の結果ではない。

以上、先行研究を概観した結果、「-지(요)」の意味や談話機能の特徴が明らかにされつつあるが、対照研究においては、これらの特徴ごとに、日本語との対応関係を考察した研究があまり行われていない。また、「-지(요)」が使用される談話場面や行為指示機能の特徴についても先行研究の結果をもとに補う必要があると思われる。次の3章では本研究における分析の枠組みと研究資料について説明する。

### 3. 研究方法

#### 3.1. 行為指示機能の分類

先行研究では終結語尾「-지(요)」について多様な観点からその意味や機能に関する研究が行われたが、本研究では言語行為(speech act)の観点から機能の分析を行う。Austin(1962)に

(5) その他の行動要求(행동요구)の対応表現については(정하준 2014)を参照。

よって始まった言語行為論とは発話を「社会的な機能を持つ行為」として解釈する理論である（加藤重広著・町田健編 2004:35）。Austin(1962) に引き続きこの言語行為を発展させた Searle(1979) では発語内行為 (illocutionary act)<sup>(6)</sup> の分類の中で、話し手が聞き手に何かを遂行させようと試みる行為を「行為指示型 (directives)<sup>(7)</sup>」と分類した（山田友幸監訳 2006:21-24）。本研究では、このような行為指示型に含まれる発語内行為の機能をまとめて「行為指示機能」と呼ぶことにする。

次に行為指示機能の分類を試みた研究を見ていく。姫野伴子 (1997:170-171, 2009:57-58)<sup>(8)</sup> では行為指示機能<sup>(9)</sup> を分類する基準を三つ挙げている。一つ目は誰が行為を行うのかを決める「行為者」、二つ目は行為の結果、誰が利益を受け誰の負担であるのかを決める「受益者」、そして、三つ目は行動を取るかどうかを誰が決定するのかという「決定権者」という基準を設定し、以下の表1のように機能を分類した。

表1 姫野 (1997:173) 行為指示型発話行為の分類

	決定権者	
	話し手	聞き手
競合型 (受益者 話し手)	命令的指示	依頼
懇談型 (受益者 聞き手)	恩惠的指示	勧め

この基準により、行為指示機能を「命令的指示」、「恩惠的指示」、「依頼」、「勧め」と分類した。また、表1には含まれていないが行為者の基準では話し手と聞き手が共同行為を行う場合があるとして、これを「勧誘」とし機能の中に含めた<sup>(10)</sup>。次の例文は (4) 依頼、(5) 命令的指示、(6) 勧誘、(7) 勧め、(8) 恩惠的指示の例である<sup>(11)</sup>。

(6) 発語内行為 (illocutionary act) とは命令や依頼などの実質的な機能を持つ発話のことを言う（加藤重広・町田健編 2004:36-37）。

(7) Searle (1979) の「行為指示型 (directives)」の日本語訳は Leech (1983) の翻訳書である（池上嘉彦・河上誓作 1987:151）や（加藤重広著・町田健編 2014:45）などを参考にした。

(8) 姫野 (2009) では、姫野 (1997) と同様の基準で分類しているが、用語に若干の変更がある。姫野 (2009) では「命令的指示」を「話し手利益指示」に変更し、「恩惠的指示」を「聞き手利益指示」に変更している。基準や内容による大きな違いは見られないため姫野 (1997) の用語を参考にする。

(9) 姫野 (1997, 2009) では「行為指示型発話行為」と呼んでいる。

(10) 勧誘の定義や扱いについて、姫野 (1997) と姫野 (2009) では異なっている。本稿では姫野 (1997:173-177) を参考にした。

(11) (4) から (8) の例文は姫野 (2009:62-73) のアンケート調査のなかでの例文を引用した。

- (4) 学生 A：すみません、ちょっと消しゴム貸してもらえませんか。
- (5) 上司：この書類を、3時までにごコピーしてください。
- (6) 後輩：今度、サークルでピクニックに行こうと思ってるんですけど、先輩も行きませんか。
- (7) 主催者：どうぞ、たくさん食べてください。
- (8) 医師：お薬を出しておきますので、毎食後一錠ずつ飲んでください。

(姫野 2009:62-73)

この中でも、表1に含まれていない(6)の「勧誘」の行為者は話し手と聞き手にあり、受益者は基本的に聞き手にあるが、聞き手と話し手の両者になる場合もあると説明した(姫野 1997:174)。また、「勧誘」の受益者である聞き手にはその行為が負担になってはならないものであると説明している(姫野 1997:177)。

次に、日本語記述文法研究会編(2009:289-292)では聞き手に要求する行為を「命令、禁止、依頼、勧め、助言、忠告」と分類し、話し手の行為が伴うものとして「誘い、許可求め、申し出」を言及している<sup>(12)</sup>。各機能の特徴として「命令と禁止」は聞き手の行為に対して強制的に指示するものと説明し、「勧め、助言、忠告」の違いについては、「勧め」は聞き手が喜ぶようなことを指示するのに対して「助言」と「忠告」は聞き手にある何らかの落ち度を改めるように指示するものとして区別している(日本語記述文法研究会編 2009:290)。本稿では姫野(1997, 2009)では言及されなかった「助言」と「忠告」を一つにまとめて行為指示機能に含めることにする<sup>(13)</sup>。以上、本稿では上記の先行研究を参考にし、行為指示機能を下記の表2のように「命令、恩恵、依頼、勧め、助言・忠告、勧誘」の6つの機能に分類し、終結語尾「-지(요)」の機能を考察する。

---

(12) 日本語記述文法研究会編(2009:289)ではこれらの機能をまとめて「持ちかけ系の対人行動」と呼んでいる。

(13) 日本語記述文法研究会編(2009)で言及された「禁止」は本研究の韓日並列コーパスから「-지(요)」の機能として現れなかったため除外した。また、「許可求め、申し出」は指示とみなせないと判断し除外した。

表 2 本研究の行為指示機能の分類

	決定権者	受益者	行為者	その他
命令 <sup>(14)</sup>	話し手	話し手	聞き手	強制的
恩恵 <sup>(15)</sup>	話し手	聞き手	聞き手	
依頼	聞き手	話し手	聞き手	
勧め	聞き手	聞き手	聞き手	
助言・忠告	聞き手	聞き手	聞き手	落ち度
勧誘	聞き手 <sup>(16)</sup>	聞き手 (話し手)	聞き手 話し手	

### 3.2. 脈絡分析の枠組み

脈絡分析は対象とする言語がどのような話し手と聞き手の間で使用されるのか、また、どのような発話意図や環境で使われるのかなどの様々な脈絡要素との関連を分析し、言語の使用法の一般化を試みる研究である (Celce-Murcia 2002; 강현화 2012:397-403)<sup>(17)</sup>。そして、この結果を言語教育に活用することで学習者の発話の適切性やコミュニケーション能力の向上を図ることを目的とするものである (강현화 2012:396-397)。本研究では、「-지(요)」が使用される談話場面の特徴を考慮にいたれた日本語の対応表現を考察するために脈絡分析を行う。韓国語の文法表現を対象に脈絡分析の枠組みを提示した강현화(2012:402) と박지순(2015:47-64, 2019:71-86) を参考に脈絡分析の枠組みを次のようにする<sup>(18) (19)</sup>。

(14) 姫野 (1997:173) では「命令的指示」と呼んだが、本稿では略して「命令」と呼ぶことにする。

(15) 姫野 (1997:173) では「恩恵的指示」と呼んだが、本稿では略して「恩恵」と呼ぶことにする。

(16) 勧誘の決定権は (日本語記述文法研究会編 2009:291) を参考にした。

(17) Celce-Murcia (2002) では、「脈絡分析 (contextual analysis)」と呼び、これを談話のなかである形態や構造がどこで、何を意味し、なぜ使用されたのかに関して一般化を試みる方法として説明した (김서현 이혜숙, 이지영, 손다정 訳 2010:198-199 から引用)。また、강현화(2012) では「脈絡分析 (맥락 분석)」と呼び、その枠組みの提案や分析方法、脈絡と文法を基盤とした文法記述の重要性を説明した。

(18) 강현화(2012:402) では、脈絡分析の枠組みを「発話の意図 (발화 의도)」、「話し手の性別 (화자 성별)」、「地位 (지위)」、「関係 (관계)」、「親疎 (친소)」、「場所 (장소)」、「使用域 (사용역)」、「ジャンル (장르)」などの項目を設定した。박지순(2015:49-64, 2019:71-86) では「話し手と聞き手の性別 (화・청자 성별)」、「話し手と聞き手の年齢 ((화・청자 연령)」、「性別の関係 (성별 관계)」、「年齢の差 (연령 차)」、「地位の差 (지위 차)」、「親疎関係 (친소 관계)」、「会った回数 (만남 횟수)」、「関係の種類 (관계 유형)」、「場所の種類 (장소 유형)」、「発話場面 (발화 장면)」、「第3者の有無 (제3자 유무)」、「媒体 (매체)」、「ジャンル (장르)」などの項目を設定した。本稿では「-지(요)」の脈絡分析の結果を教育的に活用できることを念頭におき、강현화(2012) の「話し手の性別」と「地位」、「ジャンル」を参考にし、박지순(2015:47-64, 2019:71-86) の「話し手と聞き手の性別」、「話し手と聞き手の年齢」、「年齢の差」、「地位の差」、「関係の種類」、「発話場面」、「ジャンル」を参考にした。また、ジャンルの内容は一部変更を加えた。脚注 21 を参照。

(19) 고우미 (2021) では「韓日・日韓並列コーパス (한일・일한 병렬말뭉치)」を構築するにあたり、강현화

表3 脈絡分析の枠組み

1 話し手性別	男性、女性、集団、未確認
2 聞き手性別	男性、女性、集団、未確認
3 話し手年齢	10代未満、10-90代、集団、未確認
4 聞き手年齢	10代未満、10-90代、集団、未確認
5 年齢	話し手<聞き手、話し手>聞き手、話し手=聞き手、集団、未確認
6 地位	話し手<聞き手、話し手>聞き手、話し手=聞き手、集団、未確認
7 関係の種類	1次集団から4次集団、集団、未確認
8 ジャンル	(1) 日常対話、(2) 業務対話、(3) 講義談話、(4) 電話対話、 (5) 独話、(6) 媒体（カカオトーク、SNS など）、 (7) その他（サービス<銀行、飲食店、医療など>）
9 発話場面	格式、非格式

性別は話し手と聞き手のそれぞれに「男性、女性、集団、未確認」とし、年齢も話し手と聞き手に「10代未満、10代から90代、集団、未確認」とした<sup>(20)</sup>。年齢は話し手と聞き手の年齢をもとに、地位は話し手と聞き手の社会的役割をもとに判断し「話し手<聞き手、話し手>聞き手、話し手=聞き手、集団、未確認」とした。また、関係の種類では血縁関係から構成されている1次集団と親交があり私的な関係で構成されている2次集団、親交があり公的な関係である3次集団、親交が無く見知らぬ集団である4次集団とした(박지순 2015:57, 2019:79)。また、ジャンルは(1) 日常対話、(2) 業務対話、(3) 講義談話、(4) 電話対話、(5) 独話、(6) 媒体（カカオトーク、SNS など）、(7) その他（サービス<銀行、飲食店、医療など>）とした<sup>(21)</sup>。発話場面

(2012)と박지순 (2015)の脈絡分析の枠組みを参考に行っているが、「年齢」の差を設定せず「親疎関係」を設定している点、また、「ジャンル」の項目においても本稿とは異なる。また、洪妍定・高優美 (2023)においても강현화 (2012)と박지순 (2015,2019)の脈絡分析の枠組みを参考に韓日・日韓並列コーパスを構築しているが、本稿の脈絡要素以外にも「区分」、「親疎関係」、「会話者の関係」、「場所」、「会話の位置」などの多数の項目を設定している点で本稿とは異なる。

(20) 「集団」と「未確認」は박지순(2015:49-64, 2019:71-86)を参考にした。また、박지순(2015,2019)では話し手または聞き手によって「집단 화자 (集団話者)」、「집단 청자 (集団聴者)」としているが、本稿では簡略化し集団とした。

(21) 本研究では、ジャンルの枠組みを洪妍定・高優美 (2023)の朝鮮語教育学会第92回例会の発表要旨の中の脈絡分析の枠組みを参考にした。洪妍定・高優美 (2023)では、「日常対話 (일상대화)」、「業務対話 (업무대화)」、「講義談話 (강의대화)」を박지순 (2015, 2019)のジャンルの項目を参考に行っている。また、박지순 (2015, 2019)の媒体という項目をジャンルの中に入れていた。そして、その他（サービス<銀行、飲食店、医療など>）を新たに設定し、박지순 (2015, 2019)の購買対話をその中に入れていた。その他の「電話対話」、「独話」については강현화 (2012)を参考に行っている。本稿においてもこれらを参考にした。ただし、本稿では、洪妍定・高優美 (2023)のジャンルの項目である「発表」は本研究のジャンルの項目に入れていない。

は格式と非格式の二つとした(박지순 2015:59, 2019:81)。本研究は以上の枠組みを用いて終結語尾「-지(요)」の談話脈絡を分析する。

### 3.3. 研究資料

本研究では、原文が韓国語でその対訳が日本語である韓日並列コーパスを作成した。コーパスの構築のために使用したテキストはネットフリックスで放送されている韓国ドラマのシナリオとその日本語吹き替えを使用した。韓国ドラマの選定においては日常生活以外にも職場などの様々な場面が含まれるドラマを選ぶようにした。本研究で選定したドラマと回数はA「気象庁の人々(기상청 사람들)、2022年放送、1-16話」、B「社内お見合い(사내맞선)、2022年放送、1-12話」、C「スタートアップ:夢の扉(스타트업)、2020年放送、1-11話」である。

上記の韓国語ドラマのシナリオと日本語吹き替え資料から終結語尾「-지(요)」の用例を190例収集し、EXCELファイルに用例を入力した。また、韓国語の用例とその日本語訳を入力するだけでなく、表2と表3の枠組みを使用し、終結語尾「-지(요)」の機能や脈絡情報も用例ごとに判断し情報を入力した。次の章では、このような過程で構築した韓日並列コーパスから収集した「-지(요)」の分析結果を述べる。

## 4. 分析結果

本研究で使用する190例のうち形態別の使用頻度は敬語形の丁寧体<sup>(22)</sup>である「-(으)시지요/-(으)시죠」の形態が116例(61.1%)で一番多く、その次に非敬語形の丁寧体の「-지요/-죠」が54例(28.4%)、非敬語形の普通体の「-지」が20例(10.5%)という結果になった。次の4.1.では「-(으)시지요/-(으)시죠」、4.2.では「-지요/-죠」、4.3.では「-지」の脈絡と機能、日本語の対応表現を考察することにする。

### 4.1. 「-(으)시지요/-(으)시죠」

『韓国語基礎辞典(한국어기초사전)』では、「-(으)시지요/-(으)시죠」の意味を「聞く人にある事を丁寧に命じたり勧めたりするときに使う表現(듣는 사람에게 어떤 일을 정중하게 명령하거나 권유할 때 쓰는 표현)」と説明している<sup>(23)(24)</sup>。このような意味を持つ「-(으)시지요/-(으)시죠」がどのような談話脈絡で使用されているのかを見ていく。本研究の「-(으)시지요/-(으)시죠」の脈絡

(22) 待遇形式の呼び方は日本語に合わせる。また、用語は辻岡咲子(2018)を参考にした。

(23) 『한국어기초사전』([https://krdict.korean.go.kr/kor/dicMarinerSearch/search?nationCode=&ParaWordNo=&mainSearchWord=%EC%9C%BC%EC%8B%9C%EC%A7%80%EC%9A%94&\\_csrf=e5a5b923-ee68-4ccc-bd4b-eb8ac9d4f36f](https://krdict.korean.go.kr/kor/dicMarinerSearch/search?nationCode=&ParaWordNo=&mainSearchWord=%EC%9C%BC%EC%8B%9C%EC%A7%80%EC%9A%94&_csrf=e5a5b923-ee68-4ccc-bd4b-eb8ac9d4f36f) 2025-01-20)

(24) 4.2以降で使用している『延世韓国語辞典(연세한국어사전)』では「-(으)시지요/-(으)시죠」が見出し語として載っていないため、『한국어기초사전』を使用する。

分析の結果は次の通りである。

表 4 「-(으)시지요/-(으)시죠」の脈絡分析の結果 (%)

1 話し手性別	男性 73(62.9)、女性 43(37.1)
2 聞き手性別	男性 64(55.2)、女性 36(31)、集団 15(12.9)、未確認 1(0.9) <sup>(25)</sup>
3 話し手年齢	20-30代：94(81)、40-50代：18(15.5)、60-70代：2(1.7)、未確認 2(1.7)
4 聞き手年齢	20-30代：45(38.8)、40-50代：34(29.3)、60-70代：18(15.5)、集団 15(12.9)、未確認 4(3.4)
5 年齢	話し手<聞き手 64(55.2)、話し手>聞き手 19(16.4)、未確認 17(14.7)、集団 13(11.2)、話し手=聞き手 3(2.6)
6 地位	話し手<聞き手 54(46.6)、話者>聴者 22(19)、未確認 22(19)、話し手=聞き手 10(8.6)、集団 8(6.9)
7 関係の種類	3次集団 84(72.4)、4次集団 17(14.7)、2次集団 8(6.9)、1次集団 7(6)
8 ジャンル	業務対話 53(45.7)、日常対話 51(44)、講義談話 5(4.3)、その他(サービス) 4(3.4)、電話対話 2(1.7)、媒体 1(0.9)
9 発話場面	格式 69(59.5)、非格式 47(40.5)

話し手と聞き手の性別はどちらも女性よりも男性が多く、話し手の年齢は 20-30 代で高い割合を見せた<sup>(26)</sup>。年齢と地位に関しては、どちらも話し手よりも聞き手の方が高い場合に多く使用されている<sup>(27)</sup>。関係の種類は主に公的な関係である 3 次集団で 72.4% の高い割合で使用されている特徴が見られた。特に、3 次集団の中でも会社を中心とした上司と部下といった関係で多く見られた。次にジャンルの項目では業務対話と日常対話を中心に使われ、発話場面では格式的な場面が非格式的な場面よりも多く使用される傾向にあった<sup>(28)</sup>。以上の結果は尊敬形の丁寧体である「-(으)시지요/-(으)시죠」の形態的特徴と談話脈絡の関連性があらわれていることが分かる。

(25) 未確認は話し手又は聞き手がカットされている場合や映像に映らなく音声だけのため属性や関係性を判断できなかった場合である。例えば、会議の場面で話し手が「네, 제구청 나와 주시죠 (濟州庁お願いします)」(氣象庁の人々 9 話)と発話したあと、聞き手が現れず、次の場面に変わる場合などである。

(26) しかし、本研究で使用了 3 作品のドラマの主な登場人物の性別や年齢は偏りをみせている可能性があるため、この結果を一般化することは難しく、本研究の資料の中での傾向として記述した。以降、本文で記述する年齢や地位、関係の種類、ジャンル、発話場面などの傾向においても、同様にこの結果を一般化することはまだ難しく、本研究の資料の中での傾向として記述した。今後、登場人物の性別や年代の分布を均等に補強したコーパスを構築し、より正確な傾向を分析していきたい。

(27) 김강희(2019:246) では「-(으)시지요/-(으)시죠」の地位が「話し手<聞き手」の関係で多く使用されている分析結果を見せた。本研究においても同様の結果が現れた。

(28) 김강희(2019:246) では「-(으)시지요/-(으)시죠」が「公的な内容(공적 내용)」で使用される傾向にあると述べている。本研究においても関連のある結果が現れた。

次に「-(으)시지요/-(으)시죠」がどのような行為指示機能と関連があるのかを見ていく。本研究の分析の結果は次の通りである。

表5 「-(으)시지요/-(으)시죠」の行為指示機能 (%)

勧誘	依頼	勧め	命令	助言・忠告	恩恵
35(30.2)	29(25)	28(24.1)	18(15.5)	5(4.3)	1(0.9)

「勧誘」が30.2%で一番高く、その次に「依頼(25%)」、「勧め(24.1%)」などの機能が比較的高い傾向にあった。この結果から「-(으)시지요/-(으)시죠」は行為指示機能のなかでも聞き手にとって負担の少ない「勧誘」や「依頼」、「勧め」などの機能を中心に多く使われているが、強制力があり負担度が高い「命令」や、「助言・忠告」などの機能では使用されにくい傾向が把握された。

次に、このような特徴をもつ「-(으)시지요/-(으)시죠」の機能ごとの日本語対応関係は次の表6の通りである。

表6 「-(으)시지요/-(으)시죠」の日本語の対応関係

勧誘	～ましょう(23)、意訳(5) <sup>(29)</sup> 、省略(4) <sup>(30)</sup> 、～う・よう(3)
依頼	意訳(12)、～てください(10)、省略(5)、～て(2)
勧め	省略(11)、意訳(8)、お・ご～ください(4)、～ては(3)、～てください(1)、～て(1)
命令	～ましょう(7)、意訳(4)、省略(3)、～てください(2)、～て(2)
助言・忠告	～てください(3)、～べきです(1)、意訳(1)
恩恵	～てください(1)

表6の結果から、敬語形の丁寧体である「-(으)시지요/-(으)시죠」に対応する日本語は同じ待遇レベルの敬語形の丁寧体の表現である「～てください」、「お・ご～ください」などの表現と多く対応しているが、丁寧体の「～ましょう」や普通体の「～て」にも一部対応している。このような日本語表現が対応する要因を探るために談話場面を考慮にいれながら見ていくことにす

(29) 意訳は「-지」が含まれた用言の部分が他の表現に意訳されている場合である。例として「저희랑 미팅 한번 하시죠」(スタートアップ4話)の日本語吹き替えでは「弊社へ一度お越しください」と別の表現として現れた場合である。また、「-지」が含まれた用言の部分が省略され、他の表現で現れた場合も意訳とした。例として「앉으시죠」(社内恋愛1話)の日本語吹き替えでは「どうぞ」という表現として現れたが、これは「-지」が含まれた用言の部分が省略され他の表現に入れ替わったものである。このような場合も意訳とみなした。

(30) 省略は「-지」が含まれた用言の部分が省略されている場合である。例として「아, 이쪽부터 하시죠」(社内恋愛11話)の日本語吹き替えでは「こっち側から」となっており「-지」が含まれた用言の部分が全て省略され助詞で終わっている場合である。このような場合は全て省略とみなした。

る。次の例文は (9) 依頼、(10) 勧め、(11) 勧誘、(12) 命令の例を示したものである。

- (9) (하경) 화폴이하실 거면 저한테만 하시죠.  
 (ハギョン) 「八つ当たりは私だけにしてください。」(気象庁の人々 15 話)
- (10) (민우) 일단 이쪽으로 앉으시죠  
 (ミヌ) 「では、お掛けください。」(社内お見合い 4 話)
- (11) (태무) 저, 그만 가시죠, 회장님.  
 (テム) 「さあ、帰らましょう。会長。」(社内お見合い 10 話)
- (12) a (하경) 일단 브리핑은 예보 토의 때 의견 모아진 걸로 가시죠  
 (ハギョン) 「ひとまず、会見は朝の会議の結論でいきましょう。」  
 (気象庁の人々 8 話)
- b (하경) 지금 시작하시죠.  
 (ハギョン) 「すくに始めて。」  
 (수진) 네.  
 (스진) はい。(気象庁の人々 16 話)

まず、同じ待遇レベルの表現が対応している (9) と (10) の例をみていく。(9) の話し手と聞き手は同じ課長という地位であるが聞き手が話し手よりも年上であるため敬語形の丁寧体である「-(으)시지요/-(으)시죠」で依頼している発話である。日本語においても敬語形の丁寧体であり依頼として使用できる「～てください」が対応した。(10) はシェフであるミヌが社長に座るよう勧めている発話であり敬語形の丁寧体である「お・ご～ください」に対応している。

次に非敬語形の丁寧体や普通体に対応した例をみていく。(11) は社長であるテムが会長を勧誘している発話で年齢と地位の差では全て「話し手<聞き手」の関係である。そのため敬語形の丁寧体である「-(으)시지요/-(으)시죠」を使用するが、日本語では非敬語形の丁寧体の「～ましょう」が対応している。(12a) は課長であるハギョンが部下に対して命令をする発話である。この発話は若い課長である話し手が年上の部下に命令を下す場面であるため韓国語では敬語形の丁寧体である「-(으)시지요/-(으)시죠」を使うが<sup>(31)</sup>、日本語では非敬語形の丁寧体の「～ましょう」が対応している。また、(12b) は課長であるハギョンが年下の部下に命令している発話で「-(으)시지요/-(으)시죠」が使用されたケースである。この発話は地位や年齢に関係なく相手への配慮を考慮した発話であるが日本語ではそれらの考慮はなく普通体の「～て」に対応している<sup>(32)</sup>。

(31) 韓美卿・梅田博之 (2009:38-43) では韓国の職場では職位の上下関係だけでなく年齢の上下関係等の要因によって敬語行動が行われる場合があると説明しているが、本稿でも同様の傾向が現れている。

(32) 韓美卿・梅田博之 (2009:43) では、職場における韓国語の敬語使用では上下関係の基準だけでなく相

以上の結果から韓国語では年齢や地位が「話し手<聞き手」で、公的な関係の場合において行為指示機能を遂行する場合は敬語形の丁寧体である「-(으)시지요/-(으)시죠」使用するが、日本語では敬語形の丁寧体だけではなく非敬語形の丁寧体などの表現も使用できる傾向が把握された。これは逆に、韓国語を学ぶ日本語母国話者は上記のような談話脈絡の場合で指示する場合は敬語形の丁寧体である「-(으)시지요/-(으)시죠」を意識的に使用する必要がある。また、一部の使用例ではあるが、話し手よりも地位や年齢が低い聞き手においても相手への配慮を考慮し、敬語形の丁寧体である「-(으)시지요/-(으)시죠」が使用される特徴がみられたが、日本語では普通体に対応するなどの違いがみられたため、これらの使用法においても言及する必要があるとみられる。

#### 4.2. 「-지요/-죠」

『延世韓国語辞典 (연세한국어사전)』では「-지요/-죠」の意味を「勧誘文や命令文で使用され、一緒にすることを勧めることを表す (청유문이나 명령문에 쓰이어 함께 하기를 권유함을 나타냄)」と説明している<sup>(33)</sup>。まず、このような意味を持つ「-지요/-죠」がどのような談話脈絡で使用されているのかを考察する。

表7 -지요/-죠の脈絡分析の結果 (%)

1 話し手性別	男性 37(68.5)、女性 17(31.5)
2 聞き手性別	女性 28(51.9)、男性 17(31.5)、集団 9(16.7)
3 話し手年齢	20-30代: 48(88.9)、40-50代: 5(9.3)、10代 1(1.9)
4 聞き手年齢	20-30代: 39(72.2)、40-50代: 4(7.4)、集団 9(16.7)、60代: 1(1.9)、未確認 1(1.9)
5 年齢	話し手>聞き手 27(50)、話し手<聞き手 14(25.9)、集団 8(14.8)、話し手=聞き手 4(7.4)、未確認 1(1.9)
6 地位	話し手>聞き手 35(64.8)、話し手=聞き手 9(16.7)、話し手<聞き手 5(9.3)、集団 3(5.6)、未確認 2(3.7)
7 関係の類型	3次集団 42(77.8)、2次集団 8(14.8)、1次集団 2(3.7)、4次集団 2(3.7)
8 ジャンル	日常対話 32(59.3)、業務対話 15(27.8)、媒体 3(5.6)、電話対話 3(5.6)、講義談話 1(1.9)
9 発話場面	非格式 36(66.7)、格式 18(33.3)

話し手の性別は男性が高いが、聞き手は女性が高い傾向にあった。話し手と聞き手の年齢は20-30代で高い割合で使用されている。年齢と地位の差はどちらも聞き手よりも話し手が高い場

手への配慮も考慮にされ、目下の社員にも丁寧体を使うようになりつつあることが指摘されているが、このような要因が日本語との対応表現に違いが見られたと思われる。

(33) 『연세한국어사전』 (ilis.yonsei.ac.kr/ysdic/word/YT/-지요/0 2025 1-20)

合に使用されている傾向にあった<sup>(34)</sup>。これは「-지요/-죠」の形態は丁寧な言い方になるが年齢や地位が高い聞き手にはあまり使用されず、その場合には「-(으)시지요/-(으)시죠」を使う特徴を示している結果となった。関係の種類では会社などの公的な関係である3次集団で多く使用されている。ジャンルでは特に日常対話での使用が高い傾向にあり、それと合わせて発話場面も非格式的な場面で多く使用されている特徴を示した。この結果は、先の「-(으)시지요/-(으)시죠」の使用場面とは違いをみせた。次に、このような談話場面で使用される「-지요/-죠」がどのような機能として関連を持つのかを見ていく。

表8 -지요/-죠の行為指示機能の分類 (%)

勧誘	命令	依頼	助言・忠告	勧め
38(70.4)	7(13)	5(9.3)	3(5.6)	1(1.9)

「勧誘」が70.4%の高い割合で使用され、その次に「命令(13%)」や「依頼(9.3%)」などの順で使用が高い傾向にあった<sup>(35)</sup>。「-지요/-죠」が「勧誘」で一番多く使用されている点は「-(으)시지요/-(으)시죠」と同じだが、「勧誘」の次に「依頼」や「勧め」の機能が多かった「-(으)시지요/-(으)시죠」とは違い、聞き手にとって負担度が高い「命令」などの機能が多く使用されている点で違いを見せている。次に「-지요/-죠」の機能ごとに日本語との対応関係を考察する。

表9 -지요/-죠に対応する日本語表現

勧誘	～ましょう(21)、～う・～よう(8)、意識(5)、省略(4)
命令	～て(2)、～なさい(1)、～ましょう(1)、意識(3)
依頼	～てください(1)、～てくれ(1)、～てくれません(1) 意識(1)、省略(1)
助言・忠告	～てください(1)、意識(1)、省略(1)
勧め	～て(1)

表9の結果から「-지요/-죠」に対応する日本語は「-(으)시지요/-(으)시죠」の対応関係においても多く対応した「～ましょう」や「～てください」以外にも「～う・～よう」や「～て」の普通体にも多く対応する特徴が見られた。特に、勧誘と命令、依頼は丁寧体や普通体の両方に対応しており、勧めは普通体に対応しているため、この違いを中心に見ていく。次の例文は「勧誘(13)」と「命令(14)」、「依頼(15a)」、「勧め(15b)」の例である。また、(13)から(15)の談話

(34) 김강희(2019:246)においても「-지(요)」の地位が「話し手>聞き手」の関係で多く使用されている分析結果を示している。本研究においても同様の結果を示した。

(35) 김강희(2019:255)では「-지요」の縮約形である「-죠」の文型では「提案の発話行為(제안화행)」の機能で多く使用されている傾向を示したが、本研究でも類似した傾向が現れた。

脈絡は全て年齢や地位のどちらか一方が「話し手>聞き手」の状況であり、また、会社を中心とした公的な関係の間で交わされた会話である。

- (13) a (진과장) 가조, 뜨거운 국물이라도 좀 먹게.  
(ジン課長) 「行きましょう。温かいスープでも飲みに。」(気象庁の人々 5 話)
- b (태무) 그럼 다 시키조.  
(テム) 「なら、全部頼もう。」(社内お見合い 6 話)
- (14) a (여부장) 게 차장이야말로 입 씩 닦고 일 좀 하조?  
(ヨ部長) 「ケ次長こそ口を閉じて働きなさい。」(社内お見合い 8 話)
- b (인재) 출발하조.  
(インジェ) 「出発して。」(スタートアップ 1 話)
- (15) a (태무) 아직도 잠니까? 이제 그만 일어나조  
(テム) 「まだ、寝てます。もう起きてください。」(社内お見合い 7 話)
- b (태무) 앉조.  
(テム) 「座って。」(社内お見合い 6 話)

(13a) はジン課長が年上の部下を勧誘する発話で、(13b) はテム社長が親しい部下に対して勧誘する発話である。どちらも地位の差が「話し手>聞き手」であり、公的な関係であるが、(13a) は丁寧体の「～ましょ」が対応し、(13b) は普通体の「～う」が対応している。(14a) はヨ部長がケ次長に命令する発話であり、(14b) は会社の代表であるインジェが運転手に車を出すように命令する発話である。だが、対応関係では(14a) は敬語形の「～なさい」が対応し、(14b) は普通体の「～て」が対応した。(15) はテム社長が部下ハりに依頼(15a) や勧め(15b) の機能として使用されたものであるが、(15a) は「～てください」が対応し、(15b) は普通体の「～て」が対応したものである。

以上の例文を見ると韓国語では職場を中心とした公的な関係で、年齢や地位が「話し手>聞き手」の場合、丁寧体である「-지요/-조」が多く使用される傾向があるが、日本語ではそれ以外の他の要因によって様々な表現と対応していることが分かる<sup>(36)</sup>。よって、韓国語を学ぶ日本語母国話者は上記のような談話脈絡の場合で指示行為をする場合は丁寧体である「-지요/-조」を使用する必要がある。

(36) 脚注 32 と同様に例文 (13) から (15) の状況で丁寧体が使用された理由は韓美卿・梅田博之 (2009:43) が説明している職場における韓国語の敬語使用は上下関係だけではなく相手への配慮も考慮にされたためであり、これが日本語との対応表現に違いが見られたと思われる。また、これに対して日本語の吹き替えが普通体で現れた理由として、ここでは特に上下関係などの要因によるものと考えられる (韓美卿・梅田博之, 2009:36-43)。

#### 4.3. 「-지」

『延世韓国語辞典（연세한국어사전）』では「-지」の命令文は「命令文で使われ相手の行動が必ず起きることを願いながら念を押して言う（명령문에서 쓰이어 상대방의 행동이 꼭 일어나기를 바라며면서 다지어 말함）<sup>(37)</sup>」とあり、勧誘文では「勧誘文で使われ一緒にすることを勧めることを表す（창유문에서 쓰이어 같이 할 것을 권유함을 나타냄）<sup>(38)</sup>」と説明している。このような意味をもつ「-지」がどのような談話場面で使用されているのかを見ていく。

表 10 「-지」の脈絡分析の結果（％）

1 話し手性別	男性 15(75)、女性 5(25)
2 聞き手性別	男性 10(50)、女性 9(45)、集団 1(5)
3 話し手年齢	20-30代：13(65)、40-50代：5(25)、70代：2(10)
4 聞き手年齢	20-30代：17(85)、40-50代：2(10)、集団 1(5)
5 年齢	話し手＞聞き手 15(75)、話し手＜聞き手 3(15)、話し手＝聞き手 1(5)、集団 1(5)
6 地位	話し手＞聞き手 13(65)、話し手＝聞き手 4(20)、話し手＜聞き手 2(10)、集団 1(5)
7 関係の種類	3次集団 10(50)、1次集団 6(30)、2次集団 4(20)
8 ジャンル	日常対話 14(70)、業務対話 6(30)
9 発話場面	非格式 15(75％)、格式 5(25％)

話し手の性別は男性によるものが高い割合で使用されている。また、話し手と聞き手の年齢は20～30代で高い割合で使用されている傾向を示した。年齢は聞き手よりも話し手が高い場合に75％で一番高く、地位も同様に65％の高い割合で使用されている傾向にあった。この傾向は「-지요/-죠」の場合よりも、さらに高い結果となった。次に関係の種類では「-지」においても公的な関係である3次集団で50％の高い割合で使用されている点は「-(으)시지요/-(으)시죠」や「-지요/-죠」と同様であるが、「-지」に関しては、家族関係である1次集団での使用も30％となり比較的高く現れた点の違いを見せた。次にジャンルでは日常対話での使用が70％の高い割合で使用され、発話場面では非格式での使用が75％の高い割合で使用される傾向にあった。これらの結果も「-(으)시지요/-(으)시죠」や「-지요/-죠」よりも上回る高い割合を示した。次に、このような談話場面で使用される「-지」がどのような機能として関連を持つのかを見ていく。本研究の「-지」分析の結果は次の通りである。

(37) 『연세한국어사전』 (ilis.yonsei.ac.kr/ysdic/word/YT/-지/4 2025 1-20)

(38) 『연세한국어사전』 (ilis.yonsei.ac.kr/ysdic/word/YT/-지/4 2025 1-20)

表 11 -지의行為指示機能の分類結果 (%)

命令	助言・忠告	勧誘	依頼	勧め
8(40)	4(20)	3(15)	3(15)	2(10)

「命令」が40%の高い割合で使用されている結果を示した<sup>(39)</sup>。「-(으)시지요/-(으)시죠」と「-지요/-죠」では「勧誘」が一番高い結果を示したのとは異なる結果である。次に「-지」の機能ごとに日本語との対応関係を考察する。

表 12 -지に対応する日本語表現

命令	～う・～よう (4)、意識 (2)、～て (1)、～てくれ (1)、
助言・忠告	～て (1)、～てくれよ (1)、～よ (1)、意識 (1)
勧誘	～う・～よう (2)、意識 (1)
依頼	～てよ (1)、～べきだろ (1)、意識 (1)
勧め	～たら (1)、意識 (1)

表 12 の結果から二つの特徴が把握された。まず、「-지」の日本語の対応表現は全て普通体に対応していることである。二つ目は機能や状況によって多様な日本語に対応していることである。特に「～う・～よう」や「～て」以外にも、「-(으)시지요/-(으)시죠」や「-지요/-죠」では対応しなかった「～よ」、「～べきだろ」、「～たら」などの表現にも対応した。次の例文は「命令 (16)」と「助言・忠告 (17)」、「勧誘 (18)」、「依頼 (19)」、「勧め (20)」の例である。

- (16) (태무) 미팅 시간 미뤄진 김에 신제품 시식회나 참석하지.  
 (비서) 네.  
 (テム) 「時間が空いたから新商品の試食会に出よう。」  
 (秘書) 「はい。」(社内お見合い 4 話)
- (17) (한지평) 같이 좀 잡아 주지, 쏘.  
 (한지평) 「手伝ってやれよ。」(スタートアップ 5 話)
- (18) (동한) 아니 저녁이나 먹고 가지, 뭐.  
 (동한) 「夕飯でも食って行こう。」(気象庁の人々 4 話)
- (19) (하민) 아, 황금 같은 토요일에 종일 놀다 왔으면 이제 나랑 교대 좀 하지? 응?  
 (하민) 「散々遊んで帰って来たんだし俺と交代すべきだろ。」(社内お見合い 4 話)

(39) 김강희(2019:255) では「-지」が「命令の発話行為 (명령화행)」での使用が一番高い傾向を示し、その次に「忠告の発話行為 (충고화행)」などが高い割合を示した。本研究においても類似した傾向を示した。

(20) (인재) 아버지 곧 오시는데 인사하고 가지.

(インジェ) 「もうすぐ父さんも来るし挨拶していったら。」(スタートアップ3話)

(16) はテム社長が秘書に命令している発話で、「～う」が対応した<sup>(40)</sup>。(17) はチーム長が部下に対して助言・忠告した発話で、「～よ」に対応したものである。(18) は同僚を勧誘する発話で「～う」に対応している。(19) は実家の手伝いをしている弟のハミンが帰ってきた姉のハリに対してそろそろ店番を交代するように不満げに依頼している発話で、「～べきだろ」が対応した。(20) は姉であるインジェが妹に対して父に挨拶することを勧めている発話で、「～たら」が対応した。以上の結果から「-지」が場面や機能によって多様な日本語に対応している特徴が見られるため、韓国語を学ぶ日本語母国話者は日本語の対応関係よりも「-지」が使用される談話脈絡や機能に関する知識が必要だと思われる。

## 5. まとめ

本研究は終結語尾「-지(요)」の形態ごとに、談話的特徴や行為指示機能の関係性を分析し、その結果をもとに日本語対応表現を考察した。「-지(요)」の形態ごとの結果をまとめると以下の通りである。「-(으)시지요/-(으)시죠」の談話脈絡は「公的な関係」で「年齢や地位が高い聞き手(話し手<聞き手)」に「格式的な日常対話や業務対話」という談話場面で「勧誘」、「依頼」、「勧め」などの順で多く使用されている傾向にあった。その日本語の対応表現は敬語形の丁寧体である「お・ご～ください」や「～てください」以外にも、非敬語形の丁寧体である「～ましょう」、普通体の「～て」などとの対応が見られた。このことから韓国語では「公的な関係」で「年齢や地位が高い聞き手」に指示をする場合、「-(으)시지요/-(으)시죠」のように敬語形の丁寧体を使用するが、日本語ではそれ以外の表現が使用できる違いが見られるため、韓国語を学ぶ日本語母国話者は上記のような談話脈絡の場合で行為指示機能をする場合は敬語形の丁寧体である「-(으)시지요/-(으)시죠」を使用する必要があることを示した。

「-시요/-죠」の談話脈絡は「公的な関係」において「年齢や地位の高い話し手(話し手>聞き手)」が、「非格式的な日常対話」という談話場面で「勧誘」や「命令」、「依頼」などの順で多く使用される特徴が見られた。その日本語の対応表現は、「-(으)시지요/-(으)시죠」の対応関係においても多く対応した「～ましょう」や「～てください」以外にも「～う・～よう」や「～て」などの普通体にも多く対応する特徴が見られた。このことから韓国語では公的な関係である

(40) 例文(16)は話し手と聞き手が同じ行動をしているため勧誘の機能と類似しているとも判断できる。しかし、勧誘は聞き手の利益を目的とするもので、負担をかけてはならないものである(姫野1997:177)。例文(16)は聞き手である秘書に利益をもたらすものとは判断できないため、話し手だけの利益になり、かつ強制的である命令と判断した。

場合には、年齢や地位の差が「話し手>聞き手」の関係であっても、相手への配慮を考慮し、丁寧体の「-지요/-죠」が使用される傾向にあるが、日本語では丁寧体以外にも普通体も対応する違いが見られたため、韓国語を学ぶ日本語母国話者は上記のような談話脈絡の場合で行為指示機能をする場合は丁寧体である「-지요/-죠」を使用する必要があることを言及した。

「-지」は主に「年齢や地位の高い話し手（話し手>聞き手）」が「公的な関係や私的な関係」において「非格式的な日常対話」という談話場面で「命令」や「忠告・助言」などの順で多く使用されている傾向が見られた。対応した日本語表現はほぼ普通体に対応しており、「～て」や「～よう・～う」以外にも、「-(으)시지요/-(으)시죠」や「-지요/-죠」では対応しなかった「～よ」、「～たら」、「～べきだろ」などの様々な表現に対応した。そのため、韓国語を学ぶ日本語母国話者は日本語の対応関係よりも「-지」が使用される談話脈絡や機能に関する理解が必要であることを言及した。

本研究の結果は、まだ補うところはあるが、学習者に「-지(요)」の辞書的な意味だけではなく、談話の視点から用法の説明や日本語との違いを指導するのに少しでも活用できることを期待する。

#### 参考文献

- 加藤重広著・町田健編(2004)『日本語語用論のしくみ』、研究社
- 辻岡咲子(2018)「日韓における行為要求表現の運用に関する対照研究」、『国文学』102、関西大学国文学会、pp.460-446
- 日本語記述文法研究会編(2009)『現代日本語文法7—談話・待遇表現—』、くろしお出版
- 韓美卿・梅田博之(2009)『韓国語の敬語入門：テレビドラマで学ぶ日韓の敬語比較』、大修館書店
- 姫野伴子(1997)「行為指示型発話行為の機能と形式」、『埼玉大学紀要』33(1)、埼玉大学教養学部、pp.169-178
- 姫野伴子(2009)「行為指示型表現に対する母語話者と学習者の適切性判断」、『明治大学国際日本学研究』1(1)、明治大学国際日本学部、pp.57-73
- 洪妍定・高優美(2023)「談話分析の観点を考慮した韓日・日韓並列シナリオコーパスの構築」、朝鮮語教育学会第92回発表要旨、(於：JR 博多シティ、2023年3月4日)
- 文彰鶴(2011a)「現代韓国語の終結語尾 -ci (yo) [-지 (요)] の多義性」、『神奈川大学言語研究』33、神奈川大学言語研究センター、pp.45-63
- 文彰鶴(2011b)「日本語と韓国語の文末形式に関する対照研究 - 「知覚表明」と「知識表明」の概念を中心として」、『言語情報科学』9、東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻、pp.31-47
- 고우미(2021)「종결기능 연결어미의 한·일 대조 연구」, 연세대학교 박사학위 논문
- 강현화(2007)「한국어 표현문형 담화기능과의 상관성 분석 연구-지시적 화행을 중심으로-」, 『이중언어학』(34), 이중언어학회, pp.1-26
- 강현화(2012)「한국어교육에서의 담화 기반 문법 연구-부정표현의 맥락문법을 활용하여」, 『외국어교육』19(3), 한국외국어교육학회, pp.395-414
- 강현화외(2016)『한국어교육 문법：자료편』, 서울：한글파크
- 김강희(2019)「한국어 지시화행의 담화문법 연구：의미, 형태, 사용에 대한 맥락 분석적 접근을 중심으로」, 연세대학교 박사학위 논문
- 김보영(2015)「한국어 '좀'의 중국어 번역 대응 연구 - 담화맥락분석을 활용하여」, 『언어학연구』20(2), 한국언어연구학회, pp.29-55

- 나성영(2009) 「일본어 「네」와 한국어 「지」구나「네」의 모달리티의 지향성」, 『일본어문학』 44, 일본어문학회, pp. 109-132
- 박재연(2004) 「한국어 양태 어미 연구」, 서울대학교 박사학위 논문
- 박지순(2015) 「현대 국어 상대높임법의 맥락 분석적 연구 - 일상적 준구어 자료의 분석을 바탕으로 -」, 연세대학교 박사학위 논문
- 박지순(2019) 『현대 국어 상대높임법의 맥락 분석적 연구 : 일상적 준구어 자료의 분석을 바탕으로』, 신구문화사
- 장채린(2018) 「한국어 교육을 위한 비격식체 종결어미 연구 : 핵심기능을 중심으로」, 연세대학교 박사학위 논문
- 정하준(2014) 「종결어미 「지」의 일본어 번역례 연구」, 『일본어문학』 1(63), 한국일본어문학회, pp.101-122
- 최수정(2014) 「종결어미 {-지}의 양태 의미 및 맥락 분석 연구」, 연세대학교 석사학위 논문
- 한길(2004) 『현대 우리말의 마침씨끝 연구』, 亦樂
- Austin, John L. (1962) *How to Do Things with Words*, The William James Lectures Delivered in Harvard University in 1955, edited by J. O. Urmson, Oxford: Clarendon Press. (飯野勝己(訳)(2019)『言語と行為: いかにして言葉でものごとを行うか』、講談社)
- Celce-Murcia, M. (2002). 'Why It Makes Sense to Teach Grammar in Context and Through Discourse', In *New Perspectives on Grammar Teaching in Second Language Classrooms*, edited by Hinkel, Eli. & Fotos, Sandra., Mahwah, N.J. : L. Erlbaum Associates. 119-134. (김서형, 이해숙, 이지영, 손다정 (옮김) (2010) 『새로운 시각으로 논의하는 제2교실에서의 외국어교육』, 한국문화사, pp.193-219)
- Leech, Geoffrey N. (1983) *Principles of Pragmatics*, London; New York: Longman (池上嘉彦, 河上誓作(訳) (1987) 『語用論』、紀伊国屋書店)
- Searle, John R. (1979) *Expression and Meaning: studies in the theory of speech acts*, Cambridge: Cambridge University Press (山田友幸(監訳), 高橋要, 野村恭史, 三好潤一郎(訳) (2006) 『表現と意味』、誠信書房)

『한국어기초사전』 <https://krdict.korean.go.kr/kor/mainAction>

『연세 한국어 사전』 <https://ilis.yonsei.ac.kr/ysdic/>

ネットフリックス <https://www.netflix.com/browse>

